

厚別の農業略年表

明治16年	河西由造らがJR厚別駅付近に入植。厚別東に入植
明治18年	大谷地・上野幌・下野幌に入植
明治22年	江別街道（現在の国道12号）の開通 小野幌に入植
明治23年	広島街道（現在の国道274号）の開通 上野幌・厚別南に牧場ができる
明治25年	停車場通の開通
明治27年	JR厚別駅の開業 国道12号と停車場通の交差点付近に農場ができる
明治30年ころ	厚別区南東部が畑・水田・酪農と豊かな農村地帯へ
明治31年	全道的な豪雨で厚別にも大被害
明治35年	全道的な豪雨で厚別にも大被害
明治42年	山本の開拓が始まる
大正14年	北海道製酪販売組合（後の雪印乳業）によるバター製造 上野幌駅（現在は厚別南公園）が軍馬の飼料であるえんばくの集積地に指定され一大酪農・牧草地帯へ
昭和元年	北海道鉄道の苗穂～苫小牧間開通 （大谷地・野津幌駅が開設）
昭和3年	瑞穂の池完成
昭和14年	厚別地区の戸数は539戸。農家は78%に当たる430戸
昭和20年ころ	戦争により若い働き手・馬を奪われ生産力が衰える
昭和25年	白石村が札幌市と合併
昭和30年	瑞穂の池大決壊
昭和32年	瑞穂の池改修完了
昭和33年	ひばりが丘団地の造成開始
昭和37年	全国的に有名な畜産王国になる 酪農バター6500ポンド、酪農牛乳・加工乳飲料200万本以上（年産）やアイスクリームの製造を行う 下野幌第一団地（現在の青葉町）の造成開始
昭和44年	下野幌第三団地（現在のもみじ台団地）の造成開始

※ 除虫菊

キク科の多年草。日本には明治初期に導入。花は、ピレトリンを含み、乾かして粉状にして、蚊取り線香または農薬の原料としていました。

冷害など幾多の困難を乗り越え、「厚別もち」と呼ばれる品質の良いもち米の生産地として、名を広げていました。現在の厚別区南東部では、大正末期から昭和十五・十六年ころにかけて「除虫菊」が栽培され、地域の特産物となっていました。昭和二十五年に、白石村（現在の白石区・厚別区）と札幌市が合併し、厚別は札幌市の農業地帯として、一層発展していきます。厚別農業協同組合や厚別酪農協同組合が中心となって農業・酪農をはぐく



昭和35年ころの馬場農場
所在地：厚別中央1条3丁目付近

み、特に酪農では、自ら乳製品の生産・加工・販売を行うなど全国的に有名な畜産王国となっています。

時代の变化

札幌近郊の農業地帯として緩やかに発展してきた厚別が大きく変わるきっかけとなったのが、昭和三十三年の「ひばりが丘団地」の造成です。昭和四十年代になると厚別副都心構想に基づき、近代的な街へと生まれ変わっていきます。

市街化に伴う農地の減少や農業者の高齢化、後継者難により、農家は、平成十七年二月一日現在で、三十戸となつていきます。その中でも市場が近く、収穫したものをその日のうちに出荷できるメリットを生かし、今でもレタス・ジャガイモ・キャベツなど二十品目以上を生産しています。今年は、厚別区民まつりで農産物の販売【写真左】を行い大好評でした。



厚別区の農家が生産した農産物の販売
（JA札幌厚別支店主催・北星学園大学協力）

農家を訪ねる

農業歴54年
堂佛 栄一さん / 69歳



農地の面積 /
厚別区 500平方メートル
北広島市 3ヘクタール
収穫物 /
トマト・キュウリ・キャベツ・
ハクサイ・ジャガイモなど

生涯現役。本物の野菜の味を知ってほしい

今でも、厚別区で農業を続ける堂佛さんは、四代目で十五歳のころには、農家を継いでいました。「子どものころから手伝いをしていた、学校の出席日数よりも欠席日数の方が多かった」と懐かしそうに話します。

昔は、厚別区に広い農地を持っていました。約三十年前、宅地開発に伴って厚別区の大半の農地を売却したそうです。「正直、農家をやめることを考えた時期もありました。でも、続けたいの思いから北広島市に新たな土地を求めて、続けることにしました。やっぱり、私には農業しかないんです」と話します。

厚別区の農家も、今では少なくなりました。農業は大変なこと多いですが、苦労したぶんだけ、作物は応えてくれるのでつらいことはないそうです。農業をしていて幸せな瞬間を尋ねると、「お客さんの、おいしい」という言葉が一番です。今でも続けるのは、「本物の野菜の味を多くの人に知ってほしい」との思いからです。直売所も開いており、地道な努力が続けています。「農業が好きだからね。これからは体が動く限り頑張りますよ」と、力強く話してくれました。



昭和44年ころの厚別白菜の収穫作業

◆取材協力 JA札幌厚別支店